



内子座 藝於遊



レリーフの解体

令和7年12月11日、南側の妻壁水切り部のレリーフの解体が始まりました。今回の保存修理工事で塗り直しをすることとなっていて、復旧時の参考とするため既存のレリーフをサンプル抽出しながらの解体作業となりました。レリーフに接している壁面や木部を傷つけないよう、見る側も息をするのを忘れるような慎重な作業です。

作業はサンダーを用い、水平方向に妻壁と接している部分の切り離し作業を行い、続いて垂直方向に切り目を入れ、大きな塊としてレリーフを解体します。レリーフ部分がどのようにとりつけられているのか不明瞭な点もあったため、打ち合わせをしつつあたりをつけながらの作業でしたが、そこは熟練の職人さん、的確な判断で着々と作業を進め無事に完了しました。このレリーフは北側妻壁にもあり、日を置いて北側も同様の作業が行われました。右の写真は作業の様子と解体されたレリーフです。レリーフは波ラスという材を使用して取り付けられていました。



レリーフ解体の様子
(12月11日撮影)



内子座保存活用検討委員会の開催

第11回目となる内子座保存活用検討委員会が12月18日に開催されました。この委員会は、平成28年に結成されました。内子座が平成27年に国の重要文化財に指定された翌年、ちょうど100周年の記念事業を行っている中での委員会結成です。東日本大震災、熊本地震と多くの天災が発生する中、南海トラフ地震への備えとともに、昭和60年の大規模復原改修から30年以上が経過し、内子座を次の100年に向けて保存活用していく上で、耐震補強や改修工事が必要であり、その準備をしていく場として設置された委員会です。令和6年度に保存修理工事は着手しましたが、工事の進捗を見守るとともに、協議していく場が必要と、現在も継続して委員会が設置されています。



□主な内容

- ・保存修理工事進捗状況の報告
- ・情報発信事業に関する報告
- ・高付加価値化改修事業(※)に関する協議

※高付加価値化改修事業は、防災施設の充実や活用環境の改善を目指して実施している事業のことで、令和7年度は実施設計を行っています。